

放射線量とその影響			
高線量放射線	致死	100SV	即死
		~100SV	がんの放射線治療を行うときの局所的な照射
		50SV	(局部照射)壊死
		10SV	(全身照射)1~2週間でほとんど死亡 (局部照射)赤班
	重症	5SV	白内障
		4SV	吐き気 半数が死亡する。
	軽症	3SV	発熱・感染・出血・脱毛・子宮が不妊になる。
		2SV	倦怠・疲労感・白血球数低下 睾丸が不妊になる。
		1SV(1000mSV)	吐き気 死亡率は低い。
低線量放射線	250mSV	胎児の奇形発生	
	~200mSV	これ以下の被ばくでは放射線障害の臨床的知見なし	
	50mSV	原子力施設で働く人たちへの基準(年間)	
	10mSV	ブラジルの人が年間に受ける自然の放射線量	
	0.6mSV	1回の胃 X 線診断で受ける量	
自然放射線	4.4mSV	医療検診も含めて日本人が1年間に受ける平均の放射線量	
	2.4mSV	日本人が1年間に自然から受ける平均の放射線量	
	0.2mSV	成田・ニューヨーク間の国際線航空機片道飛行で宇宙船からあびる量	

(1SV=1000mSV)

引用：日本放射線技師会医療被ばくガイドライン 放射線医学総合研究所 HP  
核医学会 HP

- ※ シーベルトとは放射線による人体への影響度合いを表す単位
- ※ ベクレルとは放射性物質が放射線を出す能力を表す単位
- ※ 1シーベルト=1000 ミリシーベルト=100 万マイクロシーベルト